

---

---

## 令和3年度 第1回練馬区子ども・子育て会議議事録

---

---

[日 時]

令和3年7月27日(火)午後6時30分から午後7時45分まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎20階交流会場

[出席者]

熊谷委員、斎藤委員、仙波委員、檜垣委員、吉田委員、小池委員、梅澤委員、田中委員、土田委員、戸田委員、森山委員、小櫃委員、藤岡委員、大橋委員

(事務局)

教育長、こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、練馬子ども家庭支援センター所長、学務課長、こども施策担当係長

[欠席者]

鈴木委員

[傍聴者]

2名

[次第]

- 1 練馬区子ども・子育て会議について
- 2 令和3年4月の待機児童数について
- 3 意見交換

【テーマ 子どもの健やかな成長のために大切だと思うこと】

- 4 その他

【事務局】 令和3年度第1回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。

まず、委員の出席状況についてご報告します。本日は、委員15名中出席委員14名です。委員過半数の出席を得ておりますので、練馬区子ども子育て会議条例第6条第2項により、会議は有効に成立しております。また、本日は緊急事態宣言中の開催であることを考慮し、感染防止対策を徹底した上で可能な限り速やかに会議を進めていきたいと思っております。円滑な会議運営にご協力をお願いいたします。

(配付資料確認)

続きまして、委員の皆様の委嘱に移ります。本日、委員の皆様の机上に委嘱状を交付させていただいております。委嘱期間は、令和3年7月1日から令和5年6月30日までの2年間となります。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、教育長よりご挨拶申し上げます。

【教育長】 皆様方、この度はお忙しい中、本会議の委員をお引き受けいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

練馬区においては、子ども・子育て支援施策の多くを教育委員会が担っています。この会議は、練馬区の子ども・子育てをさらに充実していくために、平成25年9月に設置され、2年を1期とし、今回で5期目となります。前期から引き続き委員をお願いする方が7名、新たに委員となられた方が8名です。中には、第1期の時から委員をお引き受けいただいている方も2名おります。ぜひ今期も活発なご意見をいただきたいと思っております。皆様方におかれましては、保護者の方をはじめ、様々な子どもに関する事業に携わっている方から、ご自身のご経験を踏まえた忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますし、委員の皆様相互の意見交換や情報交換の場として活用していただければ幸いです。

本日配付の「第2次みどりの風吹くまちビジョン」の基本計画、戦略計画、年度別取組計画等がありますが、この計画のトップに子育てが掲げられています。子育て支援施策を最重要課題、最優先課題としている区の姿勢のあらわれとご理解いただければ幸いです。

前期は委員の皆様にご意見をいただき、「第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。その計画に基づいて、区は多様化する子育てサービスのニーズに応える施策を展開しています。今期につきましては、計画の中間見直しの検討の時期ですので、それも併せ、この場で議論していただければ幸いです。

いずれにしましても、皆様はこの会議の設置の目的をご理解賜り、積極的なご意見をいただき、区の子どもたちの健やかな成長のためにお力添えをいただきたいと存じます。

【事務局】 教育長は本日、他の公務が重なっておりますので、大変申し訳ございませんが、これもちまして退席させていただきます。

次に委員紹介に入らせていただきます。名簿の記載順に自己紹介をお願いいたします。

(各委員および事務局の自己紹介)

【事務局】 続きまして、会長および副会長を選出いただきたいと思います。練馬区子ども・子育て会議条例第5条第1項において、会議に会長および副会長を置き、それぞれ委員の互選により定めることとされており、会長および副会長の選出につきまして、委員からのご推薦等があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】 前期に引き続きこの会議に出席させていただいておりますが、前例もありますので、会長、副会長には学識経験者の方が適任と思っております。

会長には子ども・家庭福祉などを専門とされ、練馬子ども家庭支援センターにおける要保護児童のスーパーバイザーであり、また、東京都の児童福祉審議会の委員を務められている藤岡委員がよろしいかと思っております。また、補佐役の副会長は前回に引き続き小櫃委員を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】 委員の皆様、いかがでしょうか。ただいまのご意見に賛同される方は、拍手をもってご承認をお願いします。

(拍手)

【事務局】 ありがとうございます。ご賛同の拍手をいただきましたので、藤岡委員に会長をお願いし、小櫃委員に副会長をお願いしたいと存じます。それでは、会長、副会長からご就任のご挨拶をお願いいたします。

(会長・副会長挨拶)

【事務局】 ありがとうございます。では、これからの会議の進行につきましては、会長をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくをお願いいたします。

【会長】 それでは、次第に従いまして会議を進めてまいります。先ほど、事務局からお話がありましたが、本日の会議は緊急事態宣言中の開催であることを考慮し、可能な限り速やかに進めたいと思っております。円滑な議事進行にご協力をお願いします。

まず、次第1「練馬区子ども・子育て会議について」です。この会議の設置目的や所掌事項、会の進め方等について、資料1が出ておりますので、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料1について説明)

【会長】 本会議の役割などのついでの説明がありました。皆様よろしいでしょうか。

続きまして、次第2「令和3年4月の待機児童数について」です。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料2-1、2-2について説明)

【会長】 ご質問やご意見はございますか。無いようであれば、議事を進めます。

次第3「意見交換」です。委員の皆様が地域で子育てに関わっている中でお考えになっていることをお聞かせいただければと思います。また、委員同士で意見交換や情報交換ができればと思っております。テーマは「子どもの健やかな成長のために大切だと思うこと」です。ご自身の子育てや地域での活動の中で、子どもの成長にとってこんなことがよかったなど、日頃から感じていることで結構でございますのでお話しいただければと思います。

【委員】 練馬区子ども・子育て支援事業計画の25ページに記載されている「子どものショートステイ」について、子ども家庭支援センターが行っています。従来は保護者がレスパイト（休息・息抜き）を目的に1週間程度子どもを預けるということでスタート

したと思います。

最近では、要支援児童が非常に増えてきて、東京都の児童養護施設は充足率が1年間で93%~95%とほとんど入れない状態です。待機者もいる中で2か月以上預かれないので、行き場所がなくなるような状況が続いています。

ショートステイを利用されている中に、要支援のお子さんが非常に増えてきています。単に1週間預かれば良いという状況ではなく、様々な家庭の課題・困難、虐待対策もしっかり行わなければなりません。中には高校生を含めて自ら緊急一時保護を求めることも増えており、高校生まで支援する制度というのは大変ですが、要支援児童が増えてくる中で普通のショートステイではなく、要支援児童を中心に預かってもらえないかという要望が出てきております。

そうしたところでは、ショートステイ事業の充実を図るべきだと思っております。ただ預かるだけではなく、そうした子どもたちの心理的なケアや、親子との調整も含めて充実していくべきだと思っております。この子どものショートステイ等をしっかり周知していただきたいと思っております。

【会長】 ありがとうございます。具体的なお話をいただいたところでございます。ほかがいかがでしょうか。

【委員】 健全な育成環境をどうするかという点でお話ししたいと思います。健全な育成環境で大事なものは、家庭と学校以外で大人との接点をいかにつくるかということにあると思います。

私の長男はボーイスカウトをやっています。そこでは様々な場所に行くことがあり、電車のマナーやキャンプのやり方などを無報酬で教えてくれます。三男が通っている幼稚園でも、保護者の「おやじの会」が盛んに活動して、無報酬ですが定期的に子どもが喜ぶイベントを企画してくれています。そういう地域のリーダー的な存在をいかに引き付けていくか、周りのメンバーを含めてどう支えていくかというのは課題だと思っています。

今までの地域というのは、基本的には専業主婦や自営業の男性がPTAを始め、少年野球などを支えてきたと思いますが、専業主婦が減少している中、リーダー役としてポテンシャルのある人を引き付けていく場が大事だと思っています。

「練馬区立こどもの森」はとても良い仕組みだと思います。子どもの居場所になるような場所・仕組みがもっと各地で広がれば良いと思います。

また、長男を見ていて思いますが、学童を卒業した後の居場所がなくなったように思います。そして今は塾が居場所になってしまっていました。クラスメイトも多いですが、それで良いのかと親としてもややもやしています。東京には魅力的な公園や地域での居場所が多くあり、子どもたちは外で遊ぶ機会が多くあると思います。そこで、本当に魅力的な居場所をいかにつくるかというのが大事だと思っています。

区は区として出来る範囲で取り組むことになるかと思いますが、例えば民間の幼稚園や保育園の園庭等を小学生にも開放していく仕組みなども考えられるのではないかと思います。

【会長】 ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

【委員】 子どもの健やかな成長のために大切だと思うことは2点あると考えています。

1点目は、自然に触れあいながら体を思いきり動かすことができる環境です。区は幸いなことに公園や農園がたくさんあり、緑豊かなところで子どもを遊ばせることができる環境があると思っています。区内には「おひさまびよびよ」をはじめ、先ほどの「子どもの森」やNPO団体が実施している「光が丘プレーパーク」など乳幼児の時から外遊びができる環境も整っていて、非常に恵まれていると感じています。

しかし、光が丘プレーパークは、今年度はコロナ禍によって区からNPO団体への補助金が減り、運営費の問題で開催が減ってしまうという残念な情報が母親の世代では話題になっています。このNPO法人では、開催日の維持というところを目指して、独自でクラウドファンディングをされたり、この地域の親たちもそこに賛同して、参加してほしいという思いで運営をしている状況です。

コロナ禍だからといって、子どもの遊び場を奪われてしまうのが、非常に残念だというのが正直な感想です。ぜひ区にはコロナ禍だからこそ、この子どもへの支援を充実してほしいと切に思っています。

2点目が、多様な人たちと関わりながら地域の中で育っていくことです。子どもは地域の様々な方と関わりながら育ってほしいと思っていて、欲を言えば、親でも頼れるような存在が地域の中にいれば良いと思っています。子どもにとっても、家族以外の大人と関わり、刺激を受けていくことが健やかな成長につながっていくと思います。

しかし、練馬区は区で生まれ育ち出産し子どもを育てる人よりも、地方から転入して子育てを始める家庭が多い印象です。地域に知り合いがいない状態で子育てをスタートする方も非常に多いと考えています。小学校に入学することで、地域で顔なじみはできるかもしれませんが、コミュニティに所属する前の未就学児がいる家庭が孤立しがちになることを危惧しています。

区の「練馬こどもカフェ」事業のように、場を設定して交流してくださいというだけでは、表面上の交流のみで終わってしまうことがあります。コミュニケーションが得意な方でしか、そういう場所は活用しづらいのではと思っています。地域の中に、気軽に予約不要で何度も通うことができ、つながり・知り合いができていく仕組みができれば良いと思っています。

子どもの遊び場は、私たち親世代にもとても大事な役割を果たしていると思いますので、ぜひ地域の居場所づくりの発展を願いたいと思います。

【会長】 ありがとうございます。いろいろとご意見を頂きました。次の方どうぞ。

【委員】 先ほど委員からお話があったこどもの遊び場に関してです。私もとても大事なことでと思っています。第1期からこの会議に参加していますが、子育てだけでなく、子育てといいますが、子ども同士が育ち合うような場所が大事だと思います。それがないと子どもにとって大きな欠陥になるのではと考えています。

確かにプレーリーダーのいる広場などはとても大事ですが、そこで考えてあげたいのが、子どもの年代の“合う/合わない”です。例えば、小学生だったら、高校生や大学生が年代的に一番合うと思います。私の幼稚園では絵画教室を開催していて、大学生に来てもらいますが、中学生との波長がすごく合っていると感じています。このように、少し年代を変えた波長の合う年代というのは、心を開いて何でも話せると感じました。区としては、こういった試みを支援していくことも必要ではないかと思

ます。

区内にも何か所かこのような事業を行っているプレーパークがありますが、いくつかあるだけだと子どもの足では届きません。子どもの行けるところにそういうところがないといけないと感じました。

また、公園は今、開け過ぎています。子どもが大人の目を遮られたところで、子ども同士で遊ぶ環境が全くなくなってしまいました。これは子どもの育ちにとって大変大きな痛手ではないかと思います。もっと目を広く、子育てだけでなく、子育ての部分に根を広げていただきたいと思っています。

【会長】 ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

【委員】 私も子どもの居場所の拡充は非常に大事だと考えております。特にそれを強く思ったのが、昨年からのコロナによる影響です。例えば、子どもたちは緊急事態宣言により急遽休校になり入学式も行えず、突如居場所を失ったような時期がありました。そのような時、練馬区内の公園の複合遊具が全て使えなくなり、公園という本来は密になりにくい場所でさえ、使う遊具、空間が限定されておりました。

今年に入ってから、例えば学校応援団ひろば事業は学年によって日時が限定されているケースがあり、夏休みも開放日が限定されました。それがさらに絞られて学年別や人数を制限した形での開放となっている現状があります。

ねりっこプラスの拡充など、非常に素晴らしいと思いますが、このコロナ禍でも何とか子どもたちの居場所を確保できるように、学校、事業者の方々、区、そして保護者が一体となって、子どもたちをサポートするべきだと思っています。

また、保育・未就学児に目を移しますと、保育所ではコロナの影響で一時的な受け入れ人数の制限やサービスの一旦停止など、保育所に入園していない家庭が子どもを預けたい場合に厳しくなっていると実感しております。コロナ禍で大変なのは重々承知していますが、学童や未就学児に対して公園の利用や、これだけ多くの緑がある区なので、何らかの場所を提供する形で何とか子どもたちの健やかな成長を維持できないかと思っています。

【会長】 貴重なご意見をありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

【委員】 子どもたちの居場所も大切ですが、子育てをしているお母さんたちの居場所も大事だと思います。私が勤めている学童では午前中、子どもたちが来る前の時間に子育て中の親同士の交流・仲間作りの場である「にこにこ」を開いています。実施してみて、親同士のつながりというのはすごく大事だと感じました。情報交換をしたり、先輩のお母さんから色々なことを聞いたりしているのをよく耳にします。そこからコミュニティを形成し、最初不安そうだったお母さんたちが笑顔になっていくと、子どもたちも笑顔になっていきます。やはり母親や父親は元気でないといけないと思いました。

先程、他の委員がおっしゃったように、私のところでは幼稚園の広い園庭やホールを使わせていただいているので、行き場がたくさんあり、子どもたちの間隔が離れているので、あまりトラブルなく運営できています。しかし私が以前勤めていた民間の学童では、広さが足りず場所も悪いというような状況の中、子どもたちがトラブルになることもありました。お母さんたちともお迎えに来ている間にお話できればいいのですが、忙しく働いてきて時間に追われて帰られるお母さんが多くみられて残念だな

とっていました。今の学童に勤めていて保護者会などをしても、手伝っていただける親御さんと、関わりたくないという親御さんで二分します。

何か私たちにできないかなと思い、色々な子どもと保護者が一緒に参加できるイベントを考えていますが、コロナの影響で去年は全くできなくなってしまった状況です。それでも、何とか親御さんと色々な関わりを持てるよう工夫をしています。おやじの会やPTA活動など様々なことに興味を持つ保護者も多いです。そういう方たちが忙しい保護者のお子さんを束ねて一緒に遊ぶなど、そのような活動を周知していくことが大事だと思っています。

また、私は青少年委員も務めています。ジュニアリーダーの中には、すごい技を持って志の高い大学生がたくさんいます。そういう人たちを交えて小学生と関わる授業などもできれば良いと思っています。

**【委員】** 私は練馬区で生まれ他市に転居しましたが、やはり子育てであれば練馬区と思い結婚と同時に戻ってきました。また、私は社会福祉士の仕事をしており、児童館やボランティアセンター、生活困窮の相談なども行ってきました。まだ7か月しか子育てをしていないので、分かるところが本当に少ないのですが、先ほどの皆様のお話と自分の経験を踏まえてお話させていただきます。

子どもの健やかな成長のために大切だと思うことは3点あります。

1点目が安心と安全です。子どもは相手から答えが返ってくるとすごく安心するのではないのでしょうか。それは親子の中で基本的に行われていなければならないものであり、そういったやり取りがなくなってしまうと、子どもには悪影響だと考えています。安全はもちろん環境面の部分もあると思います。答えが返ってきて安心する、だから反応できるというところで今度は対話が必要だと思います。先ほどから話が出ていた地域や保育施設、幼稚園、学校などの職員や、子ども同士での対話が必要になってくると思っています。

2点目に、ソフト面とハード面の整備が大切だと感じています。先ほど、子どもの年代を違う年代で合わせると良いのではと他の委員がおっしゃっていましたが、私が務めるところでもそういった活動がございまして。小学生の子たちが大学生や若いお兄さん、お姉さんと遊ぶ環境では、子どもたちは親に見せる顔とまた違った表情を見せたりします。しかしこの環境を継続していくのはとても難しいと感じています。保育や子どもに興味のある方や保護者は多いと発言された委員もおられました。興味はすごくあるけど何をして良いか分からないとか、少ししか関われないという方が多いと思いますので、是非現場の職員の方が保護者に何を求めているのかを聞かせていただけたらすごく嬉しいです。

この会議は区に意見を言うだけではなく、区と協働していくことが大切だと思うので、何か行動ができれば一番良いと思っています。自分自身も何かできることを探してこの立ち位置にいますので、ぜひ区立の児童館や民設の学童の皆様など、現場の声を聞けたら良いと思っています。

3点目です。先ほど他の委員の発言にもありましたが、徒歩圏内で行ける子どもの遊び場が私の周囲にもあまりありません。子育てのひろばなどに行ってみても、誰もいない状態で私と子どもだけで利用したこともありましたが。子どもと遊べるのは嬉し

いことなのですが、他の保護者と会えないと行かなくなってしまう。コロナ禍なので仕方ないのですが、未就学児の保護者同士の交流がなかなか始まらず、友達ができにくいというのが実情です。遊び場の情報を少しずつ近くから発信できれば良いと思っています。そのために、おもちゃの工夫や宣伝の工夫など、そのようなことを皆で考えながらできれば良いと思っています。

また、1点質問があります、年度別取組計画の中の23ページに記載されている「協力家庭によるショートステイ事業の実施」について、実施状況はどのようになっているでしょうか。

- 【会長】 ありがとうございます。たくさんのご意見を頂きました。ご質問もありましたので、事務局から説明をお願いします。
- 【事務局】 協力家庭のショートステイにつきましては、本年の1月から事業を開始しています。区内でショートステイにご協力いただける方に登録いただき、その方のご家庭にお子様をお預かりいただきます。具体的には、養育家庭にご協力していただいて事業を実施する形となっております。
- 【会長】 ありがとうございます。委員の皆様から非常に具体的なお意見を多くいただき、共通した観点をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。まだご発言ない方もいらっしゃるかもしれませんが、さらに次回につなげていければと思います。

ここで副会長にもお話をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

- 【副会長】 本日はたくさんのご意見が出たと思いながら聞いておりました。子どもたちのために、子育てのために何ができるかという視点で、非常に前向きな意見が出たと思いました。この積み重ねの中で、さらに良い観点の色々なアイデアが出てくるのではないかと期待をしています。

共通したところでは、子どもが育つことについて、「子育て」ではなく「子育て」という言葉も出ました。また、子育てをする保護者という視点もありました。どちらの視点でも、人との関わりやつながりを生む場や時間というものの重要性を認識しました。どのようにそういった場所・時間をつくれるかというところが、これからの大きな課題になるのではないかと考えています。

私自身は、日々若い学生と関わる機会が多いためなのですが、近年の若者たちは自己肯定感が低いなど、様々言われています。実際関わっていくと、若者の良い面も多々ありますが、自己肯定感が少し低いと思うような学生もいます。常に正解を求める姿や、何か失敗しないように動く姿を見ていて、子ども期にどのような育ち方をしてきたのだろうかと考えます。今日委員から挙げた子どもの居場所のように、子どもが子どもとして生きていける、大人の目を気にせず思いきり遊べる場というものが、非常に重要であると思いました。

また一方で、子どもたちが多様な人と関わっていく、多様な価値観との出会いというものが必要なのだろうと、今の若者たちを見ていると感ずるところがございます。

非常に狭いところの価値観の中、こうでなければならぬと思いながら生きていこうとすると子どもたちは苦しくなっていくと思います。多様な価値観にたくさん出会っていたならば、様々な自分らしさ、価値を大事にしながら生きていくことができるのではと、今日の委員の様々な発言の中から感じました。

さらに色々な意見を交わしながら考えていきたいと思いました。ありがとうございました。

【会 長】 ありがとうございます。皆様のご意見を踏まえた上でのコメントをいただきました。

私も皆様のご意見や、練馬区の政策の大きな方向性も伺った中で、子育ての相談も非常に増えていると聞きました。これが増えているということは、困ったときに助けを求めることができる人がいる、場所があるということが大事ではないかと思います。それは、委員の方々がおっしゃっていたように、時間をかけてじっくり関係性を構築していく中で、安心して相談できる場所や一緒に遊んだりほっとできる場所を時間をかけてつくっていくこと。それが自然には難しく、意識的につくっていかなければいけないと、委員の方々から非常に強くご意見をいただいたのではと思っています。

今日は第1回目でございますが、非常にたくさんのご意見をいただいた中で、今後このような進め方で皆様からたくさんのご意見をいただければと思っています。

それでは次第4「その他」について、事務局から連絡事項がありますのでどうぞよろしく願いいたします。

【事務局】 様々なご経験を踏まえたうえでの率直なご意見をありがとうございます。参考にしていきたいと思っています。

次回の開催は10月を予定しております。日程につきましてはまた改めて個別に調整させていただきます。

【会 長】 それでは、これもちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。